

都心共創地区(CCD:Central Co-creative District)の実現に向けて
オープンエア空間やストリートレベルでの交流を促すモデルプロジェクト

博労町オープンストリート2024

船場まちづくり検討会・大阪市建設局

車両速度抑制を図るクランク・狭さくを取り入れたシェアスペース社会実験

●取組みの趣旨と経緯

● 博労町オープンストリート2024は、2023年4月に策定した地区の将来像を示す「船場未来ビジョン」で示している「めざすべき都心像～都心共創地区(CCD:Central Co-creative District)」の実現に向け、オープンエア空間やストリートレベルでの交流を促すモデルプロジェクトです。



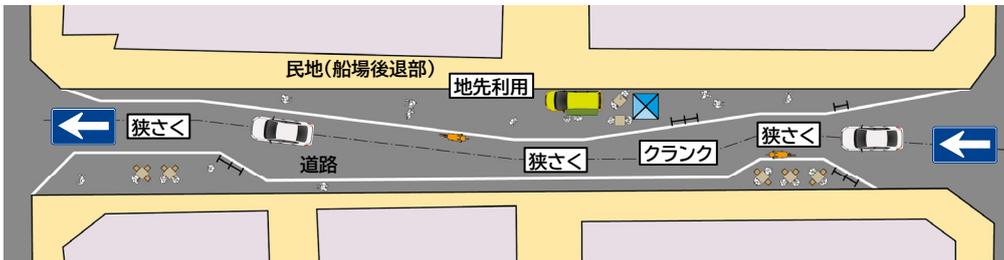
● これまでも北船場の市道高麗橋線において、船場地区に適した道路活用のあり方を検証する社会実験に取り組んでいます。



博労町 オープンストリート 2024 の実施概要

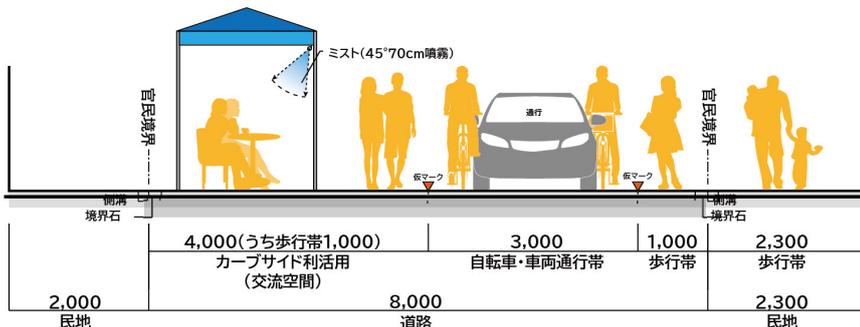
実施主体	大阪市建設局・船場まちづくり検討会
連携組織	久宝連合振興町会
開催場所	市道博労町線(博労町通) 約187m(3区画)
開催日時	2024年 7月28日(日) 1日間 10時～19時 ※設営、撤去時間は除く

平面イメージ



- クランクを形成する物理デバイスを沿道の地先利用に活用
- 車両の速度抑制を図るとともに、沿道店舗等との連続性(地先利用)を確保。
- クランクとともに、狭さく(バリケードやカラーコーン等)を設置することで、一層の車両速度の低減効果を高める。

狭さく部 断面イメージ



※シェアスペース

歩行者に優先権を与える形で自動車と歩行者が共存できる空間を整備することで人々の交流、新たな価値や活動を創出する。ヨーロッパ全体、さらにはアメリカ、オセアニアなどで広がっている。



[写真]
マリアヒルファー通り(ウィーン)